

資料 5 - 3

日本語教師【初任】(海外) 研修の教育課程編成の目安 (案)

実施機関 : 大学等日本語教育機関・団体, 派遣機関等

想定単位時間数 : 30～40 単位時間 ※1 単位時間は 45 分以上とする。

教育方法 : 集中的に実施する集合研修のほか, 複数回に分けて行う場合なども想定される。具体的な教育方法については, 事例研究, 問題解決学習など, 主体的・協働的に学ぶ機会を取り入れることが求められる。

	教育内容	単位時間数	科目名 (例)	対象別 (例)		
				初等中等 高等教育 機関	日系人 (継承語)	就労者
知識	(1) 国際関係・国際情勢 ・赴任国・地域と日本との関係・情勢	2-8	1. 海外における 日本語教育の現状	○	○	○
	(2) 海外における日本語学習者の状況 ・赴任国・地域における日本語・日本文化との接触状況			○	○	
	(3) 赴任国・地域の日本語教育事情			○	○	
	(4) 赴任国・地域の言語施策	2-8	2. 言語学習を取り巻く環境と日本語			
	・赴任国・地域における言語教育施策			○	○	
	・赴任国・地域における日本語の位置づけ			○	○	○
	・教育機関相互の言語教育の接続 (アーティキュレーション)			○		
	(6) 赴任国・地域における多文化社会					
	・複文化・複言語／多文化・多言語	○	○			
	・日系社会と継承語教育, アイデンティティ		○			
	(5) 日本語とキャリア開発		○	○	○	
(7) 言語習得と人の発達 ・発達段階に応じた言語学習 ・母語と第二言語の習得 ・言語習得と人間形成	4-8	3. 海外における 日本語指導	○	○		
(11) 赴任国・地域の言語との対照			○	○	○	
(9) 異文化マネジメント ・異文化理解教育 ・コミュニケーションに関する言語・文化間対照	4-8	4. 異文化 マネジメント	○	○	○	

資料 5 - 3

技能	(8) 演習 ・対象別指導法 ・教材分析・教材作成 ・評価法 ・授業観察・模擬授業 ・振り返り・自己点検 ・シラバス・カリキュラム作成・改善*	10-16	5. 海外に赴く 日本語教師のための 教育実習	○	○	○
	(10) 教材・教具のリソース ・eラーニング, ICT ツール (SNS など)			○	○	○
	(12) 赴任国・地域の言語での基礎的な コミュニケーション能力	必要に 応じて	6. 外国語による コミュニケーション 能力	○	○	○
	(13) 海外での実務及び関係者との連携に必要な 能力 ・マネジメント能力 (セルフマネジメント, チームマネジメント*) ・ネットワーキング力* ・人材育成能力* ・危機管理能力	8-16	7. 海外に赴く 日本語教師に必要な 能力	○	○	○
30～40単位時間						

注) *は、日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力であるが、赴任国・地域の事情等、必要に応じて、日本語教師(初任:海外)の研修に組み込む場合がある項目。また、研修内容は、赴任国・地域及び研修受講者の日本語教育経験等によって異なるものであり、上記全ての内容を必須とするものではない。

※全科目の下限の時間数を合計すると 30 単位時間となる。時間数の幅を生かすことにより、各研修実施機関における特色ある教育課程を編成することが可能である。